帰国研修員との交流

【帰国研修員の活動状況】

帰国研修員の母国（南米チリ）でのカイゼン推進活動
開催：２０１３年１２月４日

１）報告者　　：コースリーダー　　宮本　正
２）現地ﾚﾎﾟｰﾄ：帰国研修員（チリ）
カイゼン（改善）推進協議会
Mr. Jose Miguel Santana

２０１４年5月２０日
（公財）北九州国際技術協力協会　研修部

～JICA/KITAの技術研修を終了後、母国（チリ）で活躍されていますす帰国研修員メンバーのワークショップ活動を紹介します～

今回、ご紹介します帰国研修員便りは、過去5年間実施された研修コース「南米地域 生産性向上実践技術」で勉強された研修員皆さんの母国での活動状況です。
技術研修コースを担当された宮本コースリーダーより帰国研修員皆さんの活躍を紹介して頂きました。第一弾としてチリ国で活躍されていますカイゼン（改善）推進メンバーの活動状況を紹介します。

1. 帰国研修員との交流

宮本コースリーダー

南米各国

研修コース名：「南米地域 生産性向上実践技術」
～過去の研修実績～

JICA研修	研修員数	地域
H19年度	7名	4ケ国（A•B•C•U）
H20年度	6名	2ケ国（B•C）
H21年度	8名	4ケ国（A•C•PA•V）
H22年度	8名	4ケ国（C•K•E•Pa）
H23年度	8名	5ケ国（A•C•K•E•Pa）
H24年度	7名	4ケ国（C•E•K•Pe）

Aｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ、Ｂブラジル、Ｃチリ、Ｕウルグアイ、Ｐａパラグアイ
Ｖベネズエラ、Ｅエクアドル、Ｐｅペルー

2. 宮本コースリーダーからのメッセージ

- 理論は、実行した経験がなくても教えられます。
  しかし、実学＝応用は、実際に実行したことがないと教えられません。
  経験したことは、教えられます。

- 日本は、推定600万人の現場労働者が、経験したノウハウを「小集団活動」として交換しています。そこに日本の地力があります。

- ”上位•下達”が主流の彼らの文化で「実学」の交換を盛んにすることでより良き社会を相互で実現することを望んでいます。

3.現在、交流を深めている帰国研修員(南米)の皆さん

【研修員の研修年度・出身国・名前(通称)】

研修年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
国	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ	チリ	チリ	チリ	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ	チリ
名前	ナンシー	ホセ	フェリペ	ｸﾘｽﾃｨｱﾝ	カロニア	エクトル
国	チリ	チリ		コロンビア	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ	チリ
名前	パブロ	カロニア		マリア	アグスティン	ルイス
国	チリ	チリ		コロンビア	パラグアイ	チリ
名前	セルヒオ	ビクトリア		ニコラス	サムスラ	フランシスコ
国	チリ			エクアドル		エクアドル
名前	フエルナンド			ダリオ		マリーナ
国				パラグアイ		
名前				ｸﾘｵ・ｾｻﾙ		

4.今回紹介します帰国研修員(チリ国)の皆さん

名前(通称)	写真	氏名	国名	JICA 研修期間
ホセ		Mr. Jose Miguel Santana Villagra	チリ	H20/10/6～H21/2/7
フランシスコ		Mr. Martini Yanssens Francisco	チリ	H24/10/15～H25/2/9
ビクトル		Mr. Victor Mannuel Hernandez Pino	チリ	H20/10/6～H21/2/7
エクトル		Mr. Ventura Hector Eduardo Jesus	チリ	H24/10/15～H25/2/9

5. 帰国研修員の活動状況

1) ホセさんの近況

- カイゼン（改善）推進協議会を作ってセミナーや大学の講座などで普及活動を行っています。
- 構成は政府品質･生産性センター;大學、IE協会、コンサルタント集団、業界団体となっています。
- アルゼンチン・ブラジルも加えた国際シンポを行い、2 回目は提携した今井正明氏（KAIZENの著者）、3 回目はアルゼンチン／トヨタから講演をして頂きました。
- 実験計画法･タグチメソッドの普及活動をチリとアルゼンチン政府の支援で行いたいので準備が出来たら講師共々招聘したいと積極的に活動しています。

カイゼン（改善）セミナーで発表中のホセさん

◆研修員（ホセさん）への期待

- 自国内への普及計画をＡＰで作成し、駐日大使館へ出向いて説明し支援を得ており、帰国後に本コースの研修員を中心に精力的に動いて体制作りしています。
- 大統領は変わったが、昨年復帰して動きやすくなっているとのこと。マンネリにならないように中期計画に基づいての行動を期待しています。
- 政府の助成金もあるようですが、教材出版業をやって自前の資金源を持つ事を勧めています。＊共に今井ＧＰ；政府機関のコンサル資格制度・成果発表会等との連携を採る様に助言しました。

【第二回の改善セミナー報告】
2012 年 6 月

クリックしてレポートをご一読下さい

【第三回の改善セミナー報告】
2013 年 12 月

クリックしてレポートをご一読下さい

2)フランシスコさんの近況

- 南部南米で大手のＤＩＹ＆電材店チェーンの役員です。
  従業員は１５，０００人でアルゼンチン等へも展開中です。
- カイゼン（改善）は、人々の参加を得ないと進まないし、賛同を得て続けることが如何に難しいか！身にしみて解ったようです。競争が激化する中で全員のベクトルを合わせる事の大事さも解ったようです！

カイゼン（改善）セミナーで発表中のフランシスコさん

◆研修員（フランシスコさん）への期待

- 色々と文献や話でカイゼンを良く理解しており、或る意味で簡単なことと理解していた様子ですが、実現するとなると全く違う次元と言うことも理解したようです。知って居る事と実行できると言う事は全く違う！ということです。
- 誠実な性格であり、業界のＬｅａｄｅｒに是非成って貰いたい！

3)ビクトルさんの近況

- 地方の少数部族の出身であり、彼等の民度向上に尽力したいとのこと。

カイゼン（改善）セミナーで発表中のビクトルさん

◆研修員（ビクトルさん）への期待

- 極眞空手のチリ・チャンピオンだったようです。お兄さんが銅鉱山開発を行うので日本には出資者はいないだろうか？と打診があり、ロシア人は既に来ている、との相談がありました。
- 日本は個人ベースでは難しくｆｕｎｄ経由になると思われる。この方面は、特に商社が力を入れているし、サンチャゴに支店もあるのでその方面にコンタクトしてはどうかとアドバイスしている。
- 気は優しくて力持ちで、前記のホセさんと一緒にカイゼンの普及活動に活躍中。

4) エクトルさんの近況

- 溶接棒製造企業の工場長です。工場はかなり整頓されている様子ですが、肝心の溶接棒の仕上りにフラックスの欠け、割れ、不均一、等の不良が発生し上手く改善が出来ていない。
- 乾燥炉などを使い製造関与因子が多く、改善プロセスの特定と実験計画法による条件設定が優先事項に成ることが理解できたようです。

カイゼン（改善）セミナーで発表中のエクトルさん

◆研修員（エクトルさん）への期待

- 丈夫な体格の持ち主で且つ知識欲が旺盛で設備計画や治工具の発想も良く、演習先の日産九州工場も感心していました。
- 引っ張る力が強すぎて現場作業員の意見をもっと聞き出すように助言しています。上手く協調できれば好循環になります。

＊好奇心は旺盛ですが、研修時に貸した【日本企業の紹介】や【剣道選手権試合】などを返却しないまま帰国したが、規格違いで母国では見えなかったのでは・・・

【補足】

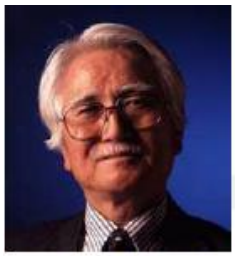
◆カイゼンセミナーで紹介された【南米地域のカイゼン推進】に活躍されている日本人の皆様。

TADASHI MIYAMOTO
Japón 2007-2012
Chile 2009

KITA　コースリーダー

KOICHI KIMURA
Chile 2007-2009
Argentina 2010 - 2012

JICA／シニアボランティア
SUMITOMO 出身



MASAAKI IMAI
Kaizen 1989
Gemba Kaizen 1991
Chile 2012

【KAIZEN】で世界的に
知名度の高いコンサルタント

6. KAIZEN(改善)セミナーの会場風景

(1) 第二回「ＫＡＩＺＥＮ」セミナー資料より　　（２０１２年６月）

（2）第三回「ＫＡＩＺＥＮ」セミナー資料より　　（２０１３年１２月４日）